

# **3. 認知症ケアの人材育成の実際 および成果と課題 ～現任者の人材育成～**

# 認知症介護研修体系

認知症介護研究・研修3センターを拠点とした

## 3-1) 現任者の研修ネットワーク

○2001年度からスタート

※資料2参照

○3センターと指導者、実務者の学びあいのサイクル

### 3センター→認知症介護指導者研修

都道府県等の推薦者年3名枠

(指導者:2005年度末で計 776人)

### 指導者が各都道府県で実践研修を展開

※現場の変化に対応して2005年度カリキュラム改正

(1) 基礎研修 → 実践者研修 (2005年度末で約50,000人)

(2) リーダー研修 → 実践リーダー研修 (2005年度末で約10,000人)

標準カリキュラム

※資料3参照

## 3-2)センター方式地域推進員ネットワーク

認知症の人本位の継続的な地域包括ケアが具体的に実践されていくことを推進していくために、認知症ケアの標準方法として作られた認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を活用しながら認知症ケアを推進していく人材のネットワーク

**東京センター→地域推進員研修** 2005年度スタート

対象：認知症介護指導者および

都道府県のケアマネ組織から推薦された  
ケアマネジメントリーダー等

(2005年度末で全国で404人)

※資料3参照

# 対象ケース数及び事業者数

## ■ケース数(居宅269名、入居196名=居住系サービス)

ケース数	介護予防対象者	介護保険利用者						
		小計	要介護度					5
			要支援	1	2	3	4	
465	24	441	3	61	92	117	101	67

## ■事業者数(サービス種別毎)

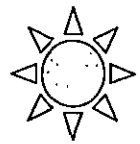
事業者数	居宅サービス										
	小計	地域・予防	居宅介護支援	訪問介護	訪問看護・リハビリ	通所介護	通所リハビリ・重度痴呆ケア	福祉用具貸与・住宅改修	短期入所	ケアハウス	在宅その他(主治医含む)
889	693	20	243	94	31	138	38	6	73	2	47
	居住系サービス										
	小計	グループホーム	介護老人保健施設		介護老人福祉施設		介護療養型医療施設				
196	30	65		83		18					

# センター方式基礎研修(6時間)の成果

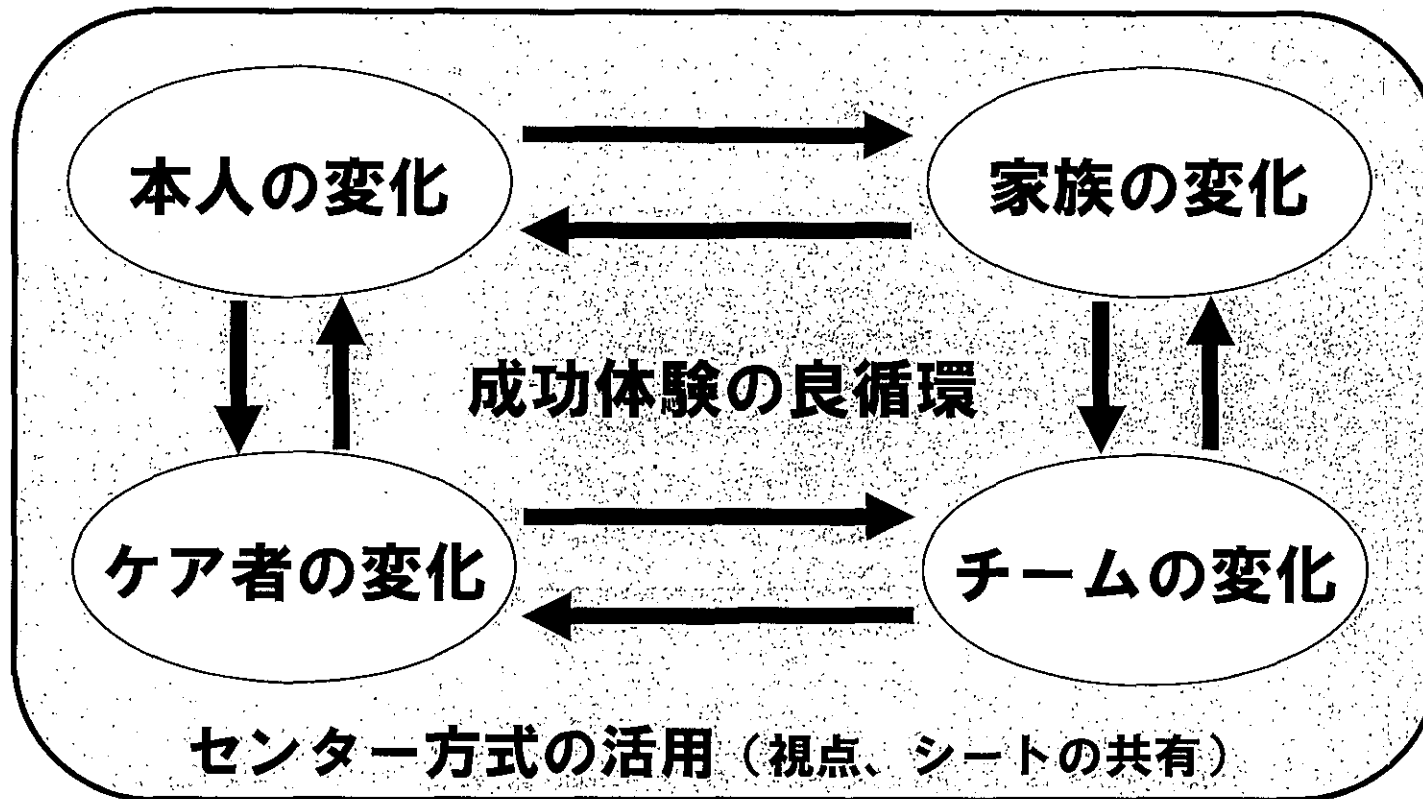
## 受講後4か月間センター方式を活用したケースの変化

平成16年度 対象者465名

本人の表情が生き生きする場面が増えた。  46.8%	担当者と家族との距離が縮まった(信頼関係が深まった)。  37.6%	本人についてよく理解するようになり、観察内容が深まった。  77.1%	ケア関係者が本人の願いや意向について一緒に考えることができるようになった、あるいは増えた。  58.3%
本人が安心した様子で過ごせる時間や場面が増えた。  44.5%	担当者への情報提供が増えた。  37.1%	本人との対話や接触の機会・時間が増えた(利用者の話を聞く、一緒にいる時間が増えた)。  62.4%	ケア関係者間でケアの手がかりになる情報発信・情報共有が進んだ。  49.9%
本人がその人らしい会話や振る舞いを現す場ができたあるいは増えた。  41.0%	認知症の症状・状態に対する理解が深まった。  34.7%	本人の認知症の症状・状態に対する理解が深まった。  57.7%	ケア関係者のアセスメントの視点・方針が共有化され、チームでの取り組み意識が強まった。  49.9%
本人が接したり見守ってもらえる人が増えた。  29.8%	本人の思いや本人側の視点で見られるようになってきた。  28.3%	本人の生活歴等を知り、本人の言動の理解や受け止めができるようになった。  55.1%	ケア関係者が問題点にのみとらわれずに、本人の可能性について一緒に考えることができるようになった。  47.5%
以前はしていなかったが自分でやる場面ができたあるいは増えた。  28.9%	本人の認知症の症状・状態について受容できるようになってきた。  24.3%	課題・問題解決志向ではなく、本人のもつ可能性やその人らしさを見るようになった。  54.2%	ケア関係者が表面的なことのみではなく、背景を踏まえて考えるようになった。  43.5%



# センター方式に取り組んだことで 成功体験の良循環が生まれてきます。



※ 特に症状が激しいケース、虐待ケース、居所移動によるダメージの危険が高いケース等で、関係者に良循環が生まれ、改善効果が大きいことが確認されています。

# センター方式を使ったケースの家族の声

## 在宅でご家族が介護中

- 介護ばかりでなく、本人が何をしようとしているのか汲み取ってやらなければということが理解できた。腹を立ててはいけない、わかっているけど、つい、本人を怒ることに気づいた。(77歳 妻)
- 私が文書を作成して行く時に母の小さなころの生い立ちを叔母達から聞いたり、本人から要望をきいたりしてゆく中で、より母のことを知ることができ、少し気持ちに幅ができたような気がします。(48歳 娘)
- 今まで抱えていた不安など心の負担が軽減され、又皆様の配慮を心強く感じました。これからも介護という長い道のりを歩んでいきますが、明かりを照らしていただいた気持ちです。(38歳 娘)
- 義母のここ2、3年の変化について、改めて確認できました。その上で本人の身になり、しっかりした介護ができればよいと考えさせられました。(52歳 嫁)
- 認知症についての理解が更に深まりました。認知症になっても残された能力はたくさんあるので、その人らしく生きるにはどうしたら良いかなど考える機会になりました。(57歳 嫁)
- もうイヤ、辛い、大変と思いますが、実はそのことに本人の力が残されているのだと気づきました。(57歳 嫁)

## ご本人が施設に入所中

- 本人(入居者、妻)の自立心を高めることを主眼、目標に介護してもらい、現在おどろく程自分自身で身の回りの事ができるようになり感謝しております。(76歳 夫)
- 介護者側でなく、本人の視点で見つめることのできるアセスメントであり、本人の意思、意向等をしっかりとらせることができ、将来の介護のあり方にも改めて気づく機会になり、非常に良いプランを作成できたので、在宅も施設入所者も共にアセスメントをこのセンター方式で作成して欲しい。(20歳 介護職の家族)
- 家族がケアマネジャーさんやスタッフの方達と話し合う機会が持てた事がとても良かったです。(60歳 娘)
- これまで認知症に対しての理解を誤認して捉えられていた為、不穏症状が生じた時スタッフ全員が身構えるという精神症状に陥った事が、認知症の者に以心伝心として伝わり、不安に陥ったり、その雰囲気異常と捉えた為に症状を増幅させていると感じていたが、センター方式をとおして認知症に対する取り組み方を変えて頂くようになってから、本人は落ち着いている様に見受けられます。ぜひ、どこの施設でもこの取り組みに参加してもらい、手のかかる邪魔者を排除する傾向に歯止めをかけていただきたいです。(53歳 娘)

# センター方式シートをケア関係者や家族が 医師に渡したことによる成果

シートの活用によりケア関係者と医療職の協働と信頼関係が具体的に生み出されていく。

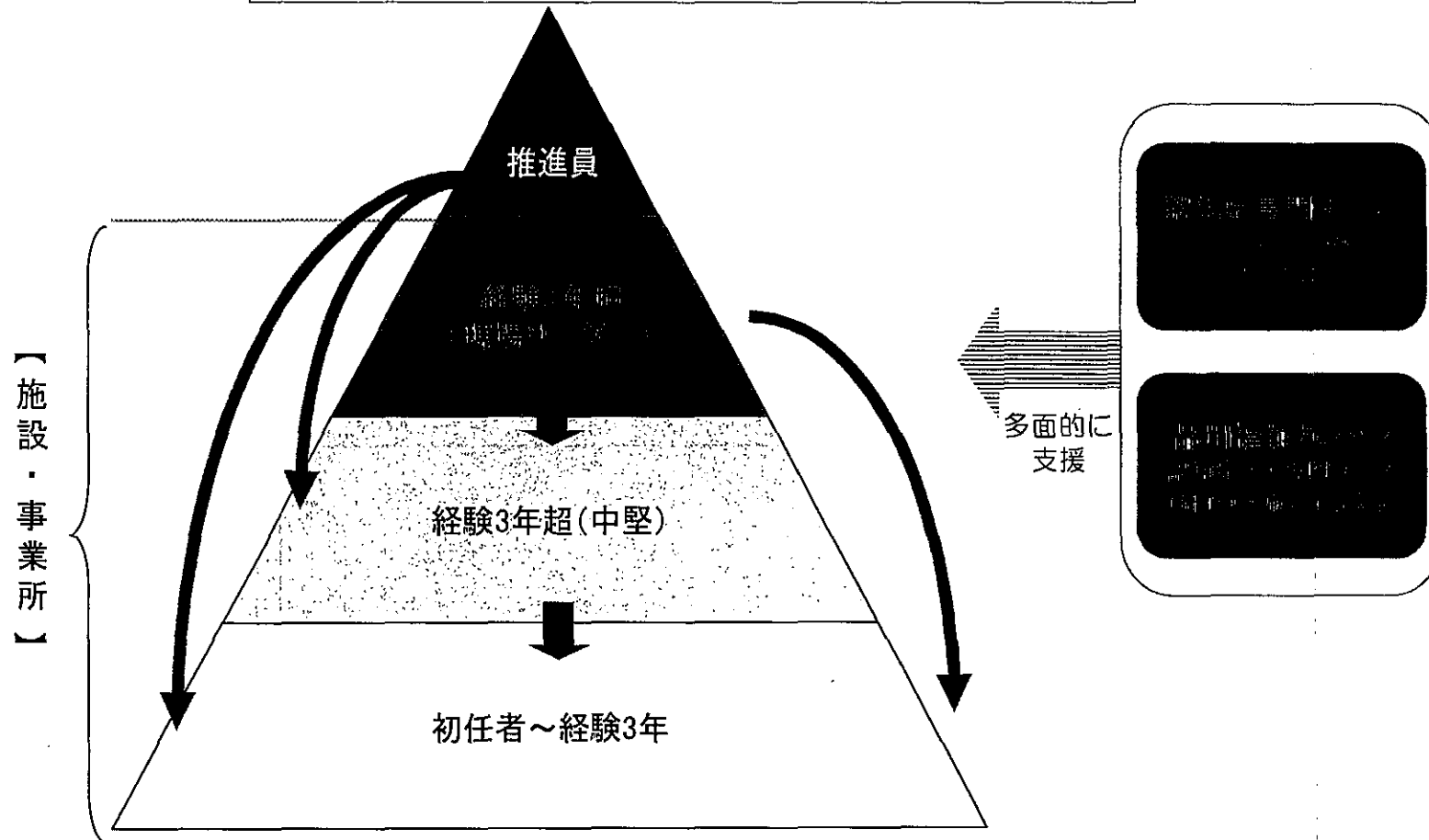
家族やケアマネジャー、ケアスタッフからシートを通して得られる情報		シートを利用しての活用例
D-3 生活リズム・パターンシート	※睡眠パターン、排泄パターンがつかめる。 ※食事・水分量、転倒等のリスクがつかめる	○状態の見極め、服薬調整 ○変化やリスクの早期発見 ○検査・治療、手術を安定して受けられるための個別対応策
D-4 24時間生活変化シート	※1日の状態の変動や1日の過ごし方がわかる ※変動の影響要因に関連する情報が得られる	○パターンシートでふだんの排泄の実態を医師に伝える→失禁タイプの見極め →医師とケア者・家族が方針をそろえて対応 →失禁の解消 ○当事者やケア関係者への具体的な助言 ○かかりつけ医意見書作成の参考資料
A-3 療養シート	※本人の受療や服薬の全体状況がわかる	○入院・入所のリロケーションダメージを防ぐための情報提供 ○本人と家族が安心して外来受診や往診を受けられるための時間決めや環境づくり
A-2 自立度経過シート	※認知症や自立度の経過がわかる ※経過の影響因子に関する情報が得られる	○経過全体の把握、認知症のステージの見極めの参考資料、方針決定の参考資料
C-1-2 姿と気持ちシート	※本人の思いや悩み、願いがわかる ※今の姿が見える	○本人や家族の困りごと、願いや要望の把握 ○当事者本位の治療やケアの方針の決定 ○介護保険サービス等の紹介・助言
B-1 家族シート	※家族・親族の思いや悩み、要望、願いがわかる	★ターミナルのあり方を本人本位に家族とケア者で支援できた、看取りの満足。



# 参考

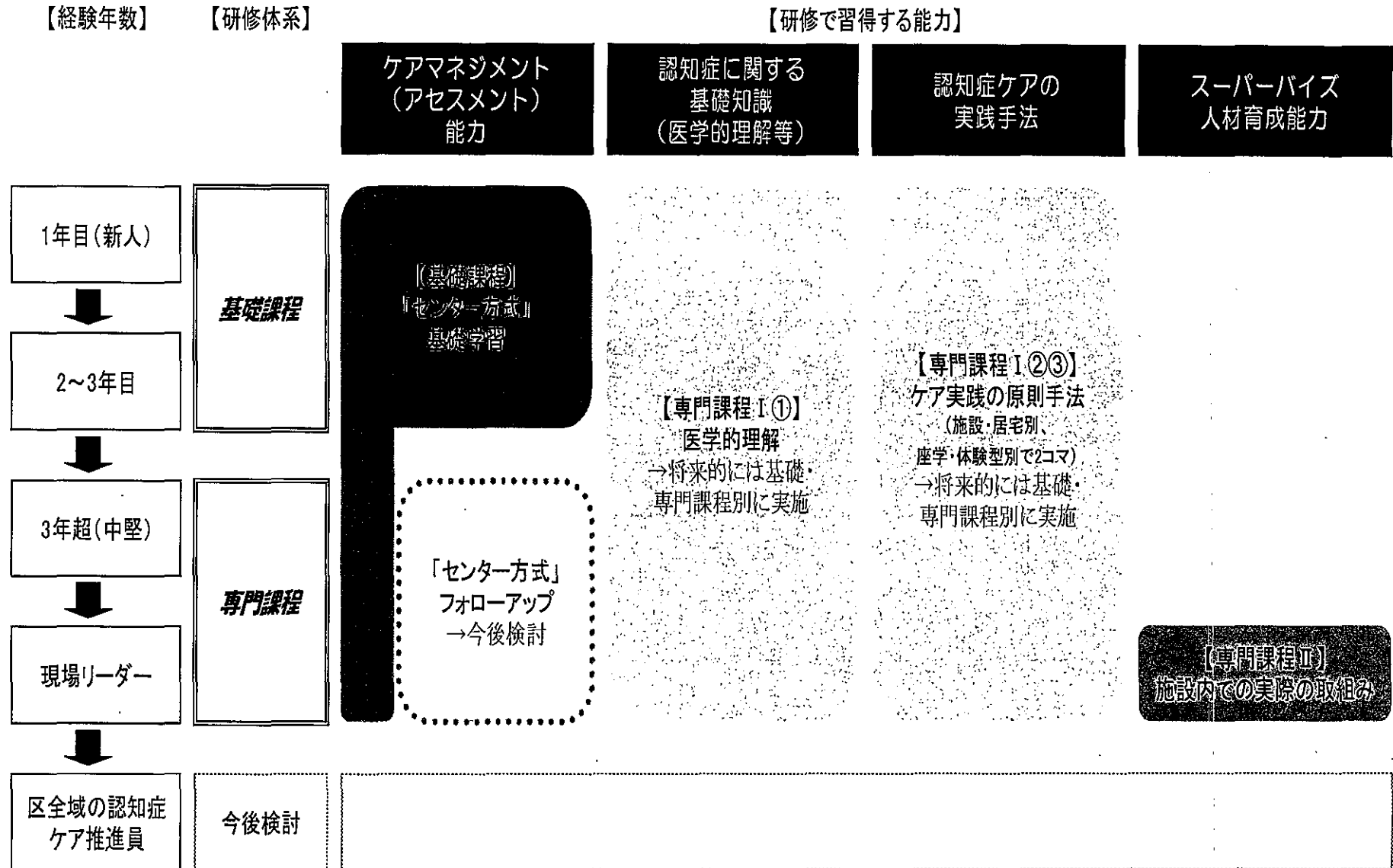
## 自治体単位で人材育成にセンター方式を活用した例 (専門学校とタイアップして実施)

### 品川区認知症ケア専門研修体系



➡ : 指導・育成

# 認知症ケア専門コースの体系(受講対象者、習得する能力)



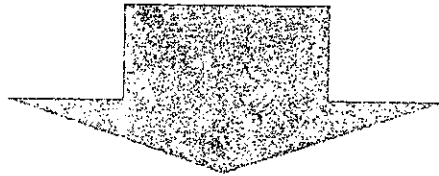
# 自治体単位で認知症ケアの人材育成を図った成果

平成17年度センター方式推進事業報告より:品川区担当職員(小林祐子保健師)

- **認知症ケアに携わる多職種が多数参加**
- **地元開催で研修の場が交流、仲間作りの場に**
- **研修担当ファシリテーターが地域で中心的役割を担うようになった**
- **研修参加者が、ケアリーダー、次会研修のファシリテーターとして成長**
- **フォロー研修を通し、家族・多職種が一緒になってセンター方式ケアマネジメントを実践・体験**

# 自治体の研修をきっかけに標準的な方法が日常に活かされるようになった

- ・ センター方式ケアマネジメントが、本人中心ケアの共通言語として多くのケアスタッフに浸透



- ・ センター方式シートを活用した品川区アセスメントシートを新たに作成

平成18年4月介護保険制度改正にあわせてシステムを改定。区内在宅介護支援センターを中心に品川区アセスメント表の一部として活用開始予定。